※評価基準　A:達成できた　B:ほぼ達成できた　C:あまり達成できなかった　D:達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(●)
小中学部	① 安心・安全な教育環境の整備を行い　児童生徒が安心して学べる環境作りに対する職員の意識向上に努める。	① 教室等の整理整頓及び児童生徒の行動から想定した安全点検に努め、事故を未然に防ぐ。危険箇所は速やかに修繕及び修理を行う。 医療的ケアの内容及び危機管理についてマニュアルを熟知し、緊急時に対応できるようにする。 ヒヤリハット及び事故の発生時案について、速やかに情報の共有、再発防止策の共通理解を行う。	A	○ 毎月1日を安全点検の日に設定して、各担当者が教室等の危険箇所及び破損の状況を調査・報告している。水道設備の修理やカーポートの補修など、対応をした。 ○ ヒヤリハット事案が発生した場合は、部主事が状況説明と今後の対策について職員朝会等で報告を行っている。職員間で情報の共有ができている。 ○ 医療的ケアについては、医療的ケア看護職員が2名体制となって2年目であるが、安全に実施できている。校外学習は医療的ケア看護職員の引率で実施して2年目となるが問題なく実施できている。 ○ 避難訓練(火災／地震)や捜索訓練を実施している。訓練終了後には、反省を基にマニュアルを見直すなど対策ができている。
	② 特別支援学校における指導の専門性の向上、壱岐市のセンター的機能の充実を図る。	② 学習指導要領が示す内容を系統的に取り扱うことができるよう、年間指導計画の整備を行い、児童生徒が着実な学習の定着が図れるように、授業を展開する。 壱岐地区特別支援教育連絡協議会について壱岐市教育委員会を中心としたネットワーク作りを行い、センター的機能の充実を図る。	A	○ 特に小学部の算数科の年間指導計画の見直しを行った。単元化したことで、指導する内容や指導の時期が明確になった。 ○ 10月に行われた壱岐地区特別支援教育連絡協議会では、特別支援教育コーディネーターが講師を務め、壱岐市のコーディネーターの指導力向上に貢献したと考えられる。 ● 小学校からの教育相談の依頼はあったが、幼稚園、保育園からの依頼はなかった。早期からの支援を行うため、未就学児への教育相談を行うことが課題である。
	③ 児童生徒一人一人のコミュニケーション能力を高め、自ら表現し伝え合う力を育成する指導を行う。	③ 設置校と合同の運動会及び学習発表会などを通して、自ら発信していく力を身に付けさせ、積極的に周囲に働き掛けて関わろうとする指導を行う。 交流及び共同学習を計画的に行い、学習場面や人と関わる場面を広げる。	A	○ 合同運動会は、昨年度同様開催ができた。学習発表会は、録画したものを盈科小学校の学習発表会で上映することで発表とした。ビデオ上映中に、盈科の児童から拍手があり、本校の児童生徒にとっては自信につながったと考える。 ○ コロナ禍以前のような交流ができつつある。予定では1回の交流から相手校の申し出で2回になったケースがある。実際の交流場面以外にも年賀状のやり取りなども行った。

※評価基準　A：達成できた　B：ほぼ達成できた　C：あまり達成できなかった　D：達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果（○）と課題（●）
高等部	① 学習指導要領の趣旨に基づき教科別の学習及び各教科等を合わせた指導の学習内容を整理し、充実した学習を実践する。	① 各教科等の目標や学習内容を意識した指導を行う。併せて単元計画・評価シートを活用した授業計画及び振り返りを行い、令和5年度の教育課程編成を行う。	A	○ おおむね、学習指導要領の目標や内容に沿った指導ができた。 ○ 研究・自立活動部を中心に単元計画・評価シートを活用し、授業計画及び年間指導計画の見直しに役立てることができた。 ○ 全職員で令和５年度の年間指導計画（全教科）について見直しを行い、生徒の実態や社会の情勢に応じた教育課程編成ができた。
	② 生徒一人一人の興味や関心、生活に結び付いた具体的な活動を学習の中心に据え、実際的な状況下でできる限り生徒の成功経験を豊富にする。	② 個別の教育支援計画、指導計画等の作成を通して、生徒、保護者及び教員間で合意形成を図り、各教科等において実生活に結び付いた学習を行い、成功体験を増やす。	A	○ 洗髪や服薬など生徒一人一人の課題に応じて、家庭と連携した指導を行い、課題解決、改善が見られた。 ○ 自立活動の時間を中心とした教育活動全般を通して、コミュニケーションなどの生徒一人一人に応じた課題解決、改善ができた。
	③ 生徒の自発的、主体的な活動を大切にするとともに、生徒一人一人が集団において役割が得られるように活動を工夫して行い、活動後に充実感や達成感を得られるように指導する。	③ 学校生活全般を通して「明るく健康で笑顔いっぱいの子ども」「夢や願いの実現に向けて粘り強く取り組む子ども」「自律心をもち主体的に行動する子ども」「思いやりのある心豊かな子ども」を育成する。	A	○ キャリア検定で、自分が取り組みたい種目を選択したり、目標を設定したりするなど意欲的に取り組む姿が見られた。 ○ 就労体験実習で、たくさんの方の協力の下、生徒一人一人が目標と責任をもって主体的に行動することができた。 ○ 生徒会役員選挙では「周囲の人の手本になりたい」と立候補する生徒が多かった。
	④ 望ましい社会参加を目指し、生徒一人一人が卒業後の生活に必要な基礎的な知識や技能、態度を理解し、自己の課題の把握及び改善を通して、自己選択・自己決定による進路の実現を目指す。	④ 生徒、保護者が卒業後の生活について明確なイメージがもてる進路指導を行うとともに、担任、進路指導部が連携し適切な進路選択・決定ができるようにする。また、卒業生及び関係機関と連携し、アフターフォローの充実に努め、就労の定着を図る。	A	○ 小中高、全ての保護者に案内を出して就労体験実習の報告会を参観していただき、高等部の進路学習を周知することができた。 ○ 生徒一人一人の思いや考えを尊重し、本人、保護者が意欲的に進路決定・選択ができる進路指導を担任を中心に行った。 ・ 次年度は、生徒、保護者が感じている進路に対する不安や要望などの情報を収集し、各関係機関へ発信することで卒業後より安心して生活できる環境の構築を進めていきたい。
	⑤ 障害の状態や特性等に応じたICT機器やアプリを選定し、生徒が自らICT機器を活用して学習上又は生活上の困難を軽減・改善できる環境設定を行う。	⑤ ICTを取り入れた授業を全ての教員が行い、成果物の共有や環境整備を見直す。またタブレットPCを持ち帰る際の、活用方法等を検討する。	A	○ 全ての教師がパソコンやタブレットパソコンを活用して、多くの情報やアプリを駆使して授業を行った。 ○ 日常的にタブレットパソコンを持ち帰ることができる体制を整えたことで、学校と家庭で行う学習のつながりがより強くなった。 ・ 長期休業中に持ち帰る際の、具体的な活用方法などが明確になっていないため、引き続き家庭と連携して、より良い活用方法を検討してきたい。

※評価基準　A:達成できた　B:ほぼ達成できた　C:あまり達成できなかった　D:達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(●)
教務部	① 教育計画の企画立案及び連絡調整を円滑に行い、適切な教育目標の達成に努める。	① 学校教育目標を達成させるため、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいて指導・評価を行い、次年度の教育課程編成を円滑に行う。 他の分掌部や設置校等と調整を行いながら、授業を円滑に行うことができるようにする。	B	○ 個別の指導計画の様式が来年度、新様式(県統一)になるため、その様式に合わせて各教科に県から出された内容のまとまりと主な指導内容の文言に整理ができた。 ○ 研究・自立活動部と連携し、単元計画評価シートを基に、生徒の実態に応じて三観点を意識した目標設定や評価ができ、授業の見直しにもつながっている。 ○ 設置校と行事を行う際は、コロナ対策を含めて、話し合いながら円滑に進めることができた。 ● 実習や行事の兼ね合いで、教育課程に沿った単元の時数が取れていないので改善が必要である。
	② 教育課程の改善に向けた原案作成、教育課程委員会の適切な運営を図る。	② 教育課程編成の手順や仕組みを視覚化し、いつ、誰が、何をするのか等、全教職員が教育課程編成の手順を理解し、取り組めるようにする。 小中高合同で教科部会を設定し、各教科の課題について検討、改善を行い、小中高の系統性が図られた教育課程の編成につなげる。	A	○ 教育課程編成スケジュールを作成し、その計画に沿って編成作業を進めることができた。 ○ ８月に各学部ごとに教科会を実施することができた。算数、数学、国語については、使用教科書や指導内容の系統性について、小中高合同で確認することができた。
	③ 教務事務を適切に処理し、学校の円滑な運営を図る。	③ 業務内容をできるだけ早めに職員へ知らせ、教員同士が協力しながら、円滑に業務遂行できるように計画する。 会議を効率的に運営できるように会議の在り方について検討する。	B	○ 昨年度と比べると行事を大きく変更することなく、実施することができた。 ○ 外部の方が来校されての会議では、コロナ対策として広い部屋を借用するなど人数に応じて柔軟に対応することができた。調整等もスムーズに行えた。 ● ９月、１０月にかけて行事が続けてあり、準備等で勤務時間外になることがあった。計画的に準備を進めていく必要があった。
	④ 情報教育の推進及び情報機器の管理やセキュリティの保守を行うとともに、個人情報の取り扱いや危機管理についての職員の周知や研修を行う。	④ 情報教育の推進及び情報機器の管理について、細かな保守点検を行うことで、いろいろな場面で活用を促す。 ICT研修会を行う中で、個人情報の取り扱いや危機管理について、情報セキュリティ研修を行うことで、周知に向けて職員への啓発活動を行う。	A	○ タブレットPCやUSBメモリの点検を定期的に行うことができた。 ○ 情報セキュリティ管理要綱から情報セキュリティマニュアルへの移行を随時行うことができた。 ○ 端末持出システムの周知、USBメモリの使い方、iPadの使い方の壱岐分校のルールを作ることができた。
	⑤ 視聴覚機器・機材の整備に努め、児童生徒が学びやすく、教師が授業を行いやすい環境を作る。	⑤ 視聴覚機器、機材の保管について管理シールの有無や場所を見直し、徹底する。 機器の不具合がないか定期的に確認する。	A	○ ICT活用研修を実施して、タブレットPCのアクセシビリティの設定について職員に周知することができた。 ○ 視聴覚機器を適切に保管することができた。

※評価基準　A:達成できた　B:ほぼ達成できた　C:あまり達成できなかった　D:達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(●)
研究・自立活動部	① 教育実践上の課題を研究内容として取り上げ、職員一人一人の専門性の向上と見識を深めるために、校内研究、授業研究、事例研究、現職教育、人権教育(同和教育を含む)研修等の企画及び推進を行う。	①「単元計画・評価シート」を用い、授業改善やカリキュラム・マネジメントの確立を目指した校内研究の推進を行う。 職員一人一人の専門性の向上を図るために、現職教育、人権教育(同和教育を含む)研修等の企画及び推進を行う。	B	○ シートを活用したモデル授業を実施し、単元の評価に基づく年間指導計画の改善につなげることができた。 ● シート作成のルールについて、教務部と引き続き協議が必要である。 ○ 人権教育については、壱岐市人権教育研究会との連絡・調整を滞りなく進めることができた。 ● 本校には職員研修についての体系的な計画がないため、次年度までの策定を目指す。
	② 児童生徒の発達障害特性に即した、効果的な自立活動の指導の充実に努める。	②「自立活動の指導に係る力量形成チェックシート」の分析に基づいて、職員の課題に即した学習会を行う。 自立活動の目標検討(確認)会を実施し、児童生徒の実態に即した指導の充実や、職員間で共通理解を図る。	A	○ 年度当初と夏季及び冬季休業中の計3回の学習会を実施できた。特に2、3回目はチェックシートの分析を基にした内容のものにすることができた。 ○ 年度当初と年度末に目標検討(確認)会を実施できた。 ● 次年度は、お互いの自立活動を見合うことで指導方法の研修ができるような機会を設定したい。
	③ 教育センター講座をはじめ、各種校外の研究会等の案内を行い、積極的な参加を呼び掛ける。	③ センター講座について、各期の講座内容を周知しながら、受講者を募る。 書架の文献等について、積極的な活用がなされるように、紹介等を行う。	B	○ 教育センター講座の募集を適宜行うことができた。 ● 図書の購入案内は適宜できたが、書架の活用のための整理・紹介ができなかった。
	④ 長崎県特別支援教育研究会に関連した業務を行う。	④ 長崎県特別支援研究大会への加入の周知や会費の取りまとめ、研究大会への参加について事務局との連絡・調整を行う。 会報作成担当校として、当研究会の研究大会及び総会に参加し、適切に会報作成ができるようにする。	A	○ 加入周知及び会費の取りまとめ、研究大会への参加など、適切に対応することができた。 ○ 初めてのオンライン開催であったこともあり、事務局との資料の共有に時間を要したが、会報作成を無事に終えることができた。
	⑤ 文化活動の啓発や図書等の整備に努める。	⑤ 校内の掲示場所の割り当てや計画を提示する。学習の様子や作品を展示できるようにする。 掲示や呼び掛け等を行い、文化的行事や各種作品展など参加を促す。	A	○ 年度初めに計画したどおり掲示板の活用ができた。 ○ 文化行事や作品展等の案内を積極的に掲示、呼び掛けをし、二～三つほど応募できた。

※評価基準　A:達成できた　B:ほぼ達成できた　C:あまり達成できなかった　D:達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(●)
健康生活部	① 児童生徒が安心安全に学習に取り組むことができるようにする。	① 登下校時の児童生徒の安全について家庭や地域と連絡を密にする。 各種訓練(火災、不審者、地震、捜索)の内容を充実させ、危機管理体制を整備する。 盈科小学校、壱岐高校と連携を図り、緊急時への対応を迅速かつ円滑に行う。	B	○ 高等部単独通学生の指導については、家庭と協力して行うことができた。 ○ ● 児童生徒と行う訓練は設置校とも協力しながら取り組むことができた。職員対象の訓練については、日程や内容など検討が必要なものもあった。 ○ 合同で避難訓練を行う中で、反省等を共有することができた。 日頃から挨拶をしたり、交流を行ったりすることで、児童生徒の特性についても共有することができた。
	② 児童生徒が、明るく健康で笑顔いっぱいに学校生活を送ることができるようにする。	② 小中学部で集会活動、高等部では生徒会を中心とした委員会活動を行い、児童生徒相互の親睦を図る。また小中高交流会を実施して、学部相互の親睦も図ることができるようにする。 長期休業中の生活についての文書を配付し、保護者への啓発を行うとともに家庭との連携を図る。 学校生活アンケートをはじめとした各種アンケートを実施し、児童生徒の問題等を把握する。	B	○ ● 日頃の挨拶や集会、生徒会・委員会活動、行事等を通して、親睦を図った。小中高交流会は、交流の持ち方についてアンケートを基に、今後検討する。 ○ 県や壱岐地区学警連の生活指導に関する文書を基に、長期休業中の生活についての文書の見直しを行い、保護者に配付、呼び掛けを行った。 ○ 学校生活アンケートや、児童生徒と関わる中での気付きや変化等を教師間で共有することで、困り感を把握できるようにした。
	③ 個々の能力に応じた学習内容を設定し、運動習慣を養うとともに総合的な体力の向上を目指す。	③ 体育科／保健体育の時間(朝の運動含む)において運動機会・時間を十分確保する。 運動会、体育祭、マラソン大会などの体育的行事を中心となって進め、運動に親しむことができるようにする。 様々な運動領域を学習させることで運動やスポーツの楽しさを知り、運動習慣が身に付くようにする。	A	○ 行事等で朝の運動の時間が取れないこともあったが、できるだけ運動の機会を確保するように努めた。 ○ 運動会や体育祭は、設置校と協力しながら進めていくことができた。実態に合わせて参加種目や内容を考えることで、児童生徒が意欲的に取り組むことができた。 ○ 中学部では相撲、高等部では柔道の学習を行い、生徒も興味をもつことができた。
	④ 健康や衛生に関する意識を高めるとともに、保健指導を充実させる。	④ 定期健診等で個々の児童生徒の健康上の課題を職員で 共有し、学校全体で改善に向けて取り組む体制を整える。 感染症等の最新の情報収集を行い、組織的で迅速・適切な対応を行う。 保健領域の集会や行事を充実させ、健康・衛生に関する知識や技能を身に付けさせる。	A	○ 定期健康診断を滞りなく実施することができた。異常等が見られた。児童生徒には通院を促すなど、児童生徒の健康上の課題については各学部での共通理解が図れていた。 ○ 手指消毒や換気など、基本的な感染症対策を継続して行うことで、感染症拡大防止に努めることができた。 ○ 集会や保健体育の授業などで取り上げた手洗いや歯磨き、身だしなみなどを生活の中でも継続して指導することができた。
	⑤ 食に関する指導の全体計画を基に、各学部に応じた食育を充実させる。	⑤ 各段階に応じた年間指導計画を作成する。 年間に2回以上食育指導を行う。	A	○ 年間指導計画を職員会議などで周知することができた。 ○ 小中学部においては、3年ぶりに壱岐市の栄養教諭に来ていただき、給食集会を実施した。給食や栄養バランスについて指導していただいた。その他は各学級や学部において、食育指導ができた。
	⑥ 文化的行事の企画・運営を行い、児童生徒が生き生きと自己表現できる学習環境や学習活動の成果を総合的に生かして発表する場を設ける。	⑥ 高等部の文化祭では、細かな役割分担や練習日程の調整等を早めに行い、職員が協力して円滑に業務ができるように計画、運営する。	A	○ 設置校とこまめに連絡を取ることで、出演時間帯の変更などに柔軟に対応することができた。 虹の原ブースは、設置校内にポスター掲示していただくことで、当日は設置校の職員や生徒も多数訪れていただき、生徒たちも学習の成果を発表することができた。

※評価基準　A：達成できた　B：ほぼ達成できた　C：あまり達成できなかった　D：達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果（○）と課題（●）
進路指導部	① 児童生徒の障害の状態や特性、能力、性格等を把握し、適性の発見と伸長に努め、個々のニーズや発達段階に応じて早期からの進路指導の推進に当たる。	① 職業科や進路学習を中心に児童生徒の働く力の実態を把握する。 進路学習を計画的に実施し、児童生徒の自己理解、自己選択の充実を図る。 卒業後の進路に関する壱岐市内外の情報を適切に提供する。	B	○ 実習や作業学習などを通して、児童生徒の得意なことと不得意なことを把握し、進路指導につなげることができた。 ○「見学したいこと」「取り組んでみたいこと」など、学習内容に応じて児童生徒が自己選択する場面を作ることができた。 ● 壱岐市外の情報については、引き続き積極的に収集していく必要がある。
	② 児童生徒の将来の社会的・職業的自立を目指すために、進路学習や関係機関との連携の在り方を整理・再考し、今後の就労支援を充実させる。	② 進路希望調査や面談で児童生徒や保護者の考えを把握し、進路希望を共通理解する。 卒業生の就職先から就職後の様子など情報を提供していただき、在校生の進路指導に役立てる。 障害福祉サービス事業所、ハローワークなどと情報を共有し、適切な進路指導体制の整備に努める。	A	○ 進路希望調査を活用して、適切に進路に関する希望や疑問を各家庭から伺うことができた。 ○ 施設見学や同窓会を通して、卒業生の様子を把握し、在校生に情報提供することができた。 ○ ハローワークと連携して、就職先の情報等を得ることができた。
	③ 学習発表会（小中学部）の企画・運営を行い、児童生徒が生き生きと自己表現できる学習環境や学習活動の成果を総合的に生かして発表する場を設ける。	③ 児童生徒の実態に合わせて発表の内容を工夫する。 児童生徒一人一人が、成長を実感できるよう、それぞれの得意なことを生かすなど、表現の方法を工夫する。 必要に応じて、ICT機器を活用する。	A	○ 実態に応じて発表の方法を工夫することができた。 ○ 学習したことや、身に付いたことを発表することで、児童生徒一人一人が達成感を味わえるような内容にすることができた。 ○ 内容に応じて、ICTを活用して発表することができた。

※評価基準　A:達成できた　B:ほぼ達成できた　C:あまり達成できなかった　D:達成できなかった

	重点目標	具体的方策	評価	成果(○)と課題(●)
教育支援部	① 本校児童生徒の教育支援の充実・改善を図るとともに、地域に開かれた学校作りに取り組む。	① 個別の教育支援計画の円滑な運用に努めるとともに、支援会議等で保護者や関係機関との連携を図る。 設置校や近隣の小・中学校、高等学校との交流及び共同学習を計画、実施する。 学校リーフレットや学校公開、学校見学会等で本校の教育活動の啓発を図る。	A	○ 年間スケジュールに沿って個別の教育支援計画を作成し、家庭や関係機関との連携のツールとして活用できた。
				○ 個別の教育支援計画を新しく作成する学年の児童生徒に関しては、希望者のみ保護者と関係機関を交えての支援会議を実施した。
				○ 感染症対策で時期を変更したものもあったが、相手校と連絡を取り合いながら実施した。どの学校も温かく迎え入れてくださり、充実した交流及び共同学習を実施できた。
				○ 年度初めに学校リーフレットを見直した。学校公開や教育週間等で多くの方に見ていただくことができた。
	② 地域の学校等への教育支援を行い、特別支援学校としてセンター的役割や機能の充実を図る。	② 教育相談を通して、地域の学校や園の幼児、児童、生徒の支援を行う。 壱岐地区特別支援教育コーディネーター研修会へ参加し、各校(園)の校内支援体制の充実を図る。	B	○ 2学期までに市内の小学校において6件の教育相談を実施した。授業観察後に、児童の実態や今後の支援方法等について、担任や特別支援教育コーディネーター、管理職と検討した。
				● 幼稚園や保育園、中学校や高等学校においては教育相談が0件であった。今後、情報発信等に努めていく。
				● 研修会等で各学校の先生方が抱える悩みや課題について話を聞いた。各学校が抱える悩みや課題は様々で、校内支援体制の充実に向けて課題を抱えている学校が多い。
				○ 壱岐市の特別支援教育研修会では、講義・演習を担当し、長期的な視点での支援の重要性について話をすることができた。
事務部	① 本校の事務部と連携して業務を行う。	① 本校担当者と日頃よりきめ細かに連絡・相談をし、本校と分校間で差異が生じないよう、画一的な事務処理を行う。 本校のみならず設置校事務室とも足並みをそろえることで、組織として壱岐分校の教育環境の整備・充実を実現する。	A	○ 本校各担当者と電話、NEWSメール等を用い、積極的に情報交換を行い、差異のない事務処理を行った。 場所的な隔たりがあることで起こるイレギュラーにも、その都度ベストな対応を心掛け、積み残しが無いよう努めた。
				○ 壱岐高校の各担当とも連携しながら分校業務に当たったことで、迅速かつ的確に対応を行うことができた。事例の共有や効率的な事務の執行ができたため、昨年より多くの教育環境整備ができた。